

職場の教養

4

2025
APRIL

職場の教養

4月号

2025(令和7)年4月1日発行
(毎月1日発行)
第55巻4号 通巻600号

編集人 三浦貴史
発行人 和田 毅

一般社団法人 倫理研究所
<https://www.rinri-jpn.or.jp>

本誌は非売品で、倫理研究所の法人会員に毎月無料で贈呈しています。入会のお申し込み・お問い合わせは、倫理法人会事務局へどうぞ。

今、世界では、異常気象による災害、食糧や資源の不足等、地球規模で人類の生存を脅かしかねない事態が発生しています。このような情勢下にあつて、企業をはじめとする集団のリーダーには、不透明な先行きを見通す先見力、適切な判断力、事業を推進しようとする強靱な意志力、現状を打破する実践力等、多様な力が求められます。本講演会では、このような「経営力」を養うヒントを、倫理の観点から提案いたします。

令和7年度

倫理経営講演会

テーマ 経営力を磨く

—小さなことから会社は変わる—



倫理経営講演会は、1月～5月、経営者を対象に全国751カ所で開催します。

お問い合わせは各倫理法人会事務局へ(本誌巻末掲載)

経営における原理原則を掴み、より良い社風を創るために——経営者としての人間性を磨く

これが倫理経営

ダイジェスト・倫理経営のすすめ

定価500円(税込) 倫理研究所 B6判 98頁

倫理経営講演会
関連図書



新刊
丸山敏秋 著

既刊
倫理経営のすすめ

小さなことから会社は変わる

丸山敏秋 著

定価1,000円(税込)

本書は、全国の倫理経営講演会会場で求めいただけます。

一般社団法人 倫理研究所

所属

氏名

今日の心がけ◆自然の美しさに触れましょう

「春のうららの隅田川」から始まるこの歌は、武島羽衣作詞、滝廉太郎作曲の「花」です。学校の音楽の時間に歌ったり聞いたたりした人も多いでしょう。「うららか」は、晴れた空やのどかな日差しなど、春の陽気を表わす言葉としてよく使われます。それ以外にも、心が晴れやかであることや、隠し事やわだかまりがない状態を示す場合もあります。

ここで、「心」は表には見えないことから、「うら（裏）」と読むと言われています。馴染みが薄いかもしれませんが、現在でも「心寂しい」「心悲しい」「心泣く」「心ぶれる」などの単語が存在します。

「花」の歌詞では、桜や青柳、明け方の空や朝露、そしておぼろ月など、多くの自然の美しさが歌われています。歌を通して自然と接することで、私たちの心も豊かになるでしょう。

人は美しいと感じるものに触れれば触れるほど、その感性が磨かれます。身近な自然を通して、うらかな心を保ちたいものです。

今日の心がけ◆既成のものを直しましょう

四月になり、新年度を迎えた会社や団体も多いことでしょう。新社会人の入社や中途採用、配置転換などにより、新たな出会いが多くなる時期でもあります。新しい環境に身を置く人にとっては、書類や用具の収納場所、人の顔と名前、その業界特有の用語など、目に入る景色や耳に入る情報が新鮮で、慣れるまでには時間がかかるものです。

分からないことが多い状態が続くと、ストレスを抱え込んでしまいます。早く慣れるためにも、積極的に聞いたり調べたりして、覚える工夫が必要です。新しい仲間が聞いたり調べたりする姿は、迎える側にとって新鮮で嬉しいものです。時間が経つ前に、早めに不明点を解消したいものです。

迎える側としては、書類の収納場所や表示の方法、独特な用語の適切さなどを見直す良い機会でもあります。

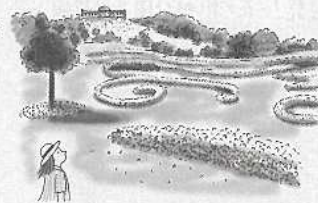
これまで当然と思っていたものでも、視点を変えたと新たな発想や改良のきっかけになります。新人の意見や提案に、積極的に耳を傾けたいものです。

日本再発見! -花が楽しめる公園(世界編)-

シェーンブルン宮殿
(オーストリア/ウィーン)

ハプスブルク家が夏の離宮として利用した宮殿には、東西約1.2km、南北約1kmにわたり庭園が広がる。幾何学的な花壇や芝生、並木道などによるフランス式庭園だ。女帝マリア・テレジアが好んだ淡い黄の宮殿と、芝生の緑をベースに花壇

や噴水の周りを彩る花々が見事に調和している。4～5月にかけては、サンザシのピンクの花が目を楽ませてくれる。また、6月頃には華やかなバラのアーチが現れ、建物や空の色とのコントラストが鮮烈だ。



今日の心がけ◆親への感謝を深めましょう

スポーツインストラクターとして働くMさんには八十八歳の母親がいます。母親は長年一人暮らしをしていましたが、高齢で日常生活に支障が出るようになったため、Mさんは母親と同居することにしました。ある日の夜、仕事から帰宅して自室に入ると、部屋が綺麗に掃除されていました。日中、母親がMさんの部屋を掃除していたのです。了承もなく母親が部屋に入ったことにMさんは一瞬戸惑いましたが、高校生の時にも、同じような出来事があったことをふと思い出しました。〈高校生の時も、大人になった今でも、母にとって私は子供のままなんだな〉と、いまだに子供扱いされていることをMさんは気恥ずかしく思いました。一方で、大人になった現在でも、昔と変わらずに愛情を注いでくれる母親は、Mさんにとってかけがえのない唯一無二の大切な存在であることに思い至り、感謝の気持ちが深まっていったのでした。

Mさんは母親にできる限りの親孝行をしようと、思いを新たにしました。

今日の心がけ◆身近な配慮に目を向けましょう

ピクトグラムは、人間の動作や概念を直感的に表現する図です。文化や言語に関係なく、多くの人が理解しやすいユニバーサルデザインとして広く利用されています。ピクトグラムは情報伝達に役立つだけでなく、多くの製品においても安全性や公平性を考慮したデザインが採用されています。例えば、多くの道路標識にはユニバーサルデザインフォントと呼ばれる文字が使用されています。また、本日開幕する大阪・関西万博では、多くの場面でユニバーサルデザインが採用されています。国内外から訪れる人々が快適に過ごせるよう、さまざまな工夫が施されています。日常生活の中でも注意して見れば、さまざまな配慮がなされていることに気づかれます。例えば、Aさんが小さな子供を博物館に連れて行った際、子供が展示物に触れないように工夫されていることに気づいたそうです。今日一日、身の回りの配慮に意識を向けてみてはいかがでしょうか。

日本再発見! -花が楽しめる公園(世界編)-

モアナルアガーデン
(アメリカ/ハワイ)

日立グループのテレビCMに登場する巨木があるのは、ハワイ王国を建国したカメハメハ王家の所有地にある私立公園だ。この巨木は、「モンキーポッド」という中南米を原産とする豆科の植物で、樹齢は130年ほど。左右対称に大きく

広がった枝の幅は約40m、高さは約25m、胴回りは約7mもある。シダのような形の葉は、日の出とともに開き、暗くなると閉じる。年に2回、5月と11月頃にブラシの毛を広げたような花を咲かせる。



挨拶は日常生活に欠かせないコミュニケーションです。
会社の長期休暇を利用して様々な国を訪れたK氏は、挨拶の後に交わされる会話が国によって異なることに気づきました。

アメリカでは「元気ですか?」と健康や体の調子を尋ねることが一般的です。フランスでは「最近どうですか?」などと近況を尋ねる挨拶が使われます。また、台湾では「ごはん食べましたか?」と食事に関する話題がよく交わされます。一方、日本では挨拶の後に「今日はいいい天気ですね」と天候の話題に触れる人が多いようです。これは、日々の天候が生活に密接に関わっているからでしょう。様々な国や地域を訪れて、K氏はその土地の歴史や文化、地理的要素などが、生活スタイルや考え方や、日常の会話にも影響を与えることを学んだといえます。私たちも職場において、出身地が違うなど、育った環境は様々でしょう。周囲の人が育った環境や文化を尊重し、誠意を持って接すること、より良い人間関係を築けるのではないのでしょうか。

今日の心がけ◆育った背景を思いやりましょう

ある日、Sさんが数人の後輩を集めて業務の手法を説明していたところ、新入社員のOさんが「このようなやり方もあるのではないのでしょうか」と別の方法を提案してきました。

Sさんは「へっさかく丁寧に説明しているのに反発するとは何事だ」と頭に血が上り、「今までのやり方があるのだから、言われた通りにやってください」とOさんの提案を却下しました。

しかし後日、その提案は荒削りではあるものの、Sさんが今まで考えたこともなかった斬新なもので、業務改善につながりそうだと気がつききました。

誰しも慣れ親しんだ方法がやりやすいものですが、後輩の提案によって硬直化した職場やマンネリ化した業務を打破できることもあるでしょう。

また、後輩の意見に耳を傾けることは、本人の成長や職場内のコミュニケーションの促進にもつながります。経験不足のため採用に至らない提案も多々あるでしょうが、後輩が意見を言いやすい職場の雰囲気を作りたいものです。

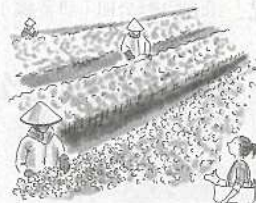
今日の心がけ◆後輩の意見に耳を傾けましょう

日本再発見! 一花が楽しめる公園 (世界編) -

サーデック村 (ベトナム/ドンタップ)

「花の村」と呼ばれるサーデックは、花の生産地として100年以上の歴史を持ち、花農家も多い。花の種類は菊やダリア、アジサイなどさまざまだが、近年は世界各国50種以上のバラの栽培に力を入れており、その多くは輸出用だ。

花は年間を通して栽培されているが、とくにデト(旧正月)の前後には多数の観光客が訪れるうえ、各地への出荷に追われる。艶やかな花々であふれる中を伝統的な円錐形の笠をかぶって作業する人々の姿に、風情が感じられる。



今日の心がけ◆安心を育みましょう

ストレスを改善するためには、神経と上手く付き合うことが重要です。「悪いほうに考え落ち込む」「イライラが多い」「緊張ですぐ疲れる」といった症状は、「安心」が足りていないためともいわれています。神経の観点から見た「安心」は、内臓の良好な働きによる心地良い身体感覚と、体調不良が時間とともに改善されるという予測性から生まれます。一方、不安な感情は、身体内部の不快な感覚から生じ、自律神経が予測できない状態にあることを示しています。私たちは、しばしば不安の原因を外に求め、周囲を変えようとしませんが、実際には不安は心身の内部と深く関係しているようです。普段意識しない自身の呼吸や心拍、内臓などの身体内部の感覚に注意を向けることは、〈今、ここに生かされている〉ことの自覚につながります。これが「何があっても大丈夫」という安心感を育むのかもしれないです。身体と心の内部感覚を整え、万全の状態の仕事に臨みたいものです。

今日の心がけ◆明確なコンセプトを持ちましょう

企業に求められる経営戦略のひとつに、企業のコンセプトを商品やサービスに反映し、顧客に提供することが挙げられます。コーヒチェーン店のスターバックスは、「家庭、職場や学校でもない『第三の場所(サードプレイス)』の提供」を企業コンセプトのひとつに掲げています。このコンセプトのもと、スターバックスは商品の開発・提供だけでなく、地域に合わせた店舗デザインや、ゆったりとくつろげる空間作りにも注力しています。今日では、その企業努力が実を結び、幅広い層から支持を受けています。現在、スターバックスは世界八十カ国以上に約三万八千店舗、日本国内では約二千店舗を展開する世界最大のコーヒチェーン店へと成長しました。明確なコンセプトがないと、企業の特徴がうまく伝わらず、独自性や魅力を生み出すことは難しいでしょう。企業にとって、方向性を定めて商品やサービスの魅力を最大限に引き出すことが使命です。こうした取り組みが顧客の心を掴むのではないのでしょうか。

日本再発見! -花が楽しめる公園(世界編)-

クライストチャーチ植物園
(ニュージーランド/クライストチャーチ)

1863年に創設され、21ヘクタールの面積をもつ植物園には、変化に富んだ10以上のガーデンが点在する。ニュージーランド固有種をはじめ、世界各地の多種多様な植物が集められており、とくに春から秋にかけて250種が咲き誇るパ

ラ園は壮観だ。南半球が春を迎える9月頃に咲く桜をはじめ、11月頃まではシャクナゲやスイセン、ツツジなどがカラフルに園内を彩る。例年12～2月にはペゴニアやダリア、アジサイなどがそれぞれの魅力を競うように咲き誇る。

